

遅刈り用いぐさ優良品種「ひのはるか」の畳表加工特性

遅刈り用いぐさ品種として、平成18年度に奨励品種に採用された「ひのはるか」(系統名:有明6号)は、部分変色茎が少なく、茎の太さも「ひのみどり」と同程度に細く、摩耗強度も同程度で高品質畳表加工が可能である。

農業研究センターい業研究所加工研究室(担当者:森崎和義)

研究のねらい

優良品種「ひのみどり」は7月5日から7月15日と収穫適期が短く、遅刈りにした場合は先枯れや茎長が伸びなかつたりすることから、遅刈りに適する品種開発が望まれている。

そこで、平成18年度に奨励品種に採用された「ひのはるか」について、畳表加工特性を解明する。

研究の成果

1. 「ひのはるか」の茎の太さは、「岡山3号」より細く「ひのみどり」と同程度であり、茎の充実度、硬度は「岡山3号」より低い「ひのみどり」と同程度である(データ略)。また、茎の引っ張り強さは茎の太さに比例し「岡山3号」と「ひのみどり」の間である(同)。
2. 「ひのはるか」の部分変色茎の発生は、「岡山3号」が長い(120cm以上)で30%超、中い(105~120cm)では60%であるのに対して、「ひのみどり」並みの5%以下で極めて少ない(データ略)。
3. 「ひのはるか」の500本織り幅(120cm以上の原草)は、茎の太さに比例し、「岡山3号」より狭く、「ひのみどり」と同程度である(図1)。
4. 「ひのはるか」の長い原草及び畳表中央部の摩耗強度は「ひのみどり」と同程度である(図2,3)。
5. 「ひのはるか」の遅刈り120cm以上原草を使用した麻一種表の評価では、評価項目すべてで「岡山3号」及び「ひのみどり」を上まわる(図4)。

普及上の留意点

1. 高品質畳表の特性が発揮できるよう、適期収穫したい草で加工が必要である。

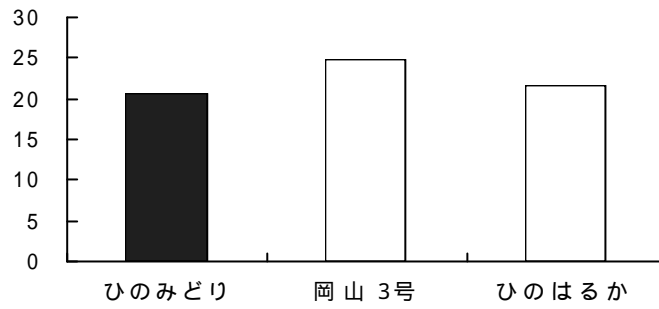


図1 原草500本の畳表織り幅 (cm)

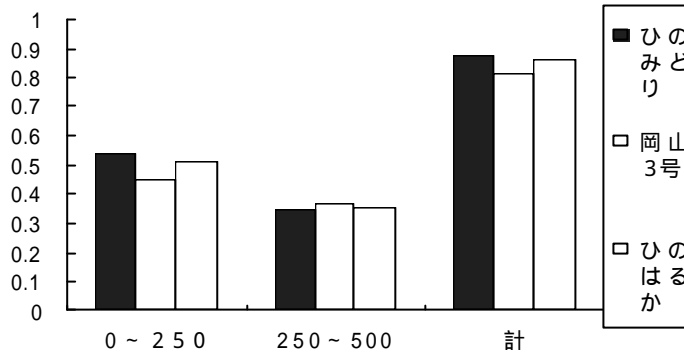


図2 原草摩耗量 (mm)

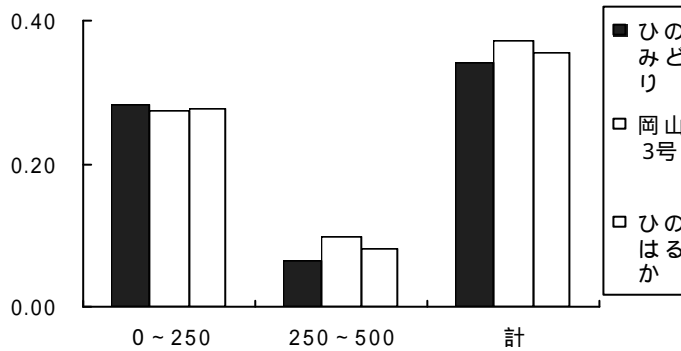


図3 畳表摩耗量 (mm)

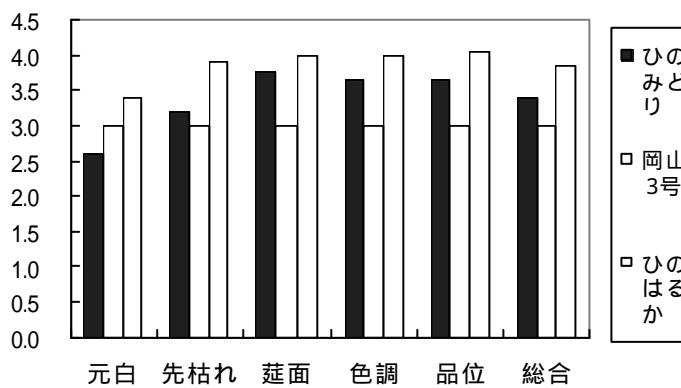


図4 畳表の品質評価 (岡山3号を標準3として評価)